

平成28年度オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）(シ08)

目的 文化財情報資料部の研究成果の一部を外部講師を交えて広く一般に公開する。

- 成果**
- 2016(平成28)年11月4日、5日にかけて広く一般から聴講を募集し、第50回オープンレクチャー(かたちからの道、かたちへの道)を開催した。テーマは以下のとおりである。
 - ・橘川英規(文化財情報資料部研究員)「ドキュメンテーション活動とアーカイブズ『日本美術年鑑』をめぐる資料群とその発信について」
 - ・増渕鏡子(福島県立美術館学芸員)「よみがえるオオカミ―飯館村山津見神社・天井絵の復元をめぐる」
 - ・佐野千絵(文化財情報資料部長)「かたちを伝える技術―展覧会の裏側へようこそ」
 - ・岡田健(保存科学研究センター長)「記憶するかたち、見つけるかたち―文化財の意味と価値」
 - 所外からの聴講者は11月4日は78名、5日には81名を得た。11月4日の60名のアンケート回答者数のうち、「大変満足した」と「おおむね満足だった」を合わせ80%、5日の75名の回答者のうち「大変満足した」と「おおむね満足だった」を合わせ85.4%の回答を得ることができた。



オープンレクチャーの様子

研究組織 ○小林達朗、佐野千絵、二神葉子、小林公治、津田徹英、塩谷純、皿井舞、安永拓世、橘川英規、田所泰、福永八朗、田中潤、野田吉郎、小山田智寛、高橋佑太、阿部朋絵(以上、文化財情報資料部)